

ごみの処理にはかなりのお金がかかる！？

◆市民課環境係(☎40-8256)

ごみは燃やしたり、細かく碎いて処理したあと、「最終処分場」に埋めることで処分を終えますが、埋められる量には限界があり、今のままでは2035(令和17)年に最終処分場を新しく作らなければならないと予想されています。置賜地域で使っている**今の最終処分場の建設にはなんと40億円を超える費用がかかりました**。ごみを捨てるにはみなさんが購入するごみ袋だけでなく、このような目に見えないとても大きなお金が使われています。ごみを減らして少しでも今の最終処分場を長く使用することで一人ひとりの負担を減らすため、ごみの分別と減量を意識しましょう！！

私たちも今日からできる！ごみの分別と減量のために意識すること

①段ボール、新聞などの紙類、食品トレイ、ペットボトルなどを燃えるごみに入れていませんか？

段ボール、紙類は資源ごみの日に、食品トレイ、ペットボトルはペット・プラの日に出せばリサイクルされてごみが減ります！

②食べきれない量の食べ物を買ってしまっていないですか？

親戚での集まりの際など、心配で食べきれないような量の食べ物を買ってしまっていないですか？購入する前にもう一度考えて、食べきれる量を買いましょう！

③「生ごみ処理機」を使って生ごみの水分を無くしてから捨ててみませんか？

家庭からでるごみの重さの約46％は水分です。市では、電気式生ごみ処理機を購入した場合2万円を上限とする補助金も用意しています！気になる方や迷っている方はぜひ市民課環境係に問合せしてみてください！

詳細は二次元コードから市ホームページをご覧ください▶



おススメの一冊「えくぼの本棚」

『龍の守る町』

砥上裕将／著 講談社／発行

消防士の秋月は、かつて現場で活躍したものの、あるきっかけから指令室勤務に。慣れないながらも、救助のために奮闘する。命と向き合う物語。



新着図書紹介

※他にも多数の新着図書を取りそろえています。

一般書

- 豊臣家の包丁人／木下昌輝 ■睡蓮／白石一文
- カモシカと進化をめぐる冒険／高田隼人
- 最新人口減少社会がよくわかる本／寺坂絵里

児童書

- ねぎのねぎしくん／戸森しるこ
- つまようじの王さま／二宮由紀子(文)、かねこまき(絵)
- 小学生のパンづくりブック／鈴木あつこ

図書館

南陽市立図書館  
南陽市立図書館  
(☎43-2219)

- 開館時間 火～金曜 10時～18時  
土曜・日曜、12日(月) 10時～17時
- 1月の休館日 1日(木)～3日(土)、5日(月)、13日(火)  
19日(月)、26日(月)

おはなし会(児童コーナー)

- どんぐりおはなし会(どんぐりお話し会) 1/10(土)11時
- しんちゃんおはなし会(しんちゃんおはなし会) 1/24(土)11時

市立図書館おたのしみ会

1/17(土)11時

図書館からのお願い

図書館の名前入り貸出袋(緑色)が戻ってきていません。お心当たりの方は、図書館までお持ちくださるようお願いいたします。

食改さんのおすすめレシピ

大理石風寒天

「筋力アップ」編

材料(4人分)

- 絹ごし豆腐 300g
- 黒すりごま 大さじ2
- 砂糖 120g
- 粉寒天 4g
- 水 250cc
- 塩 少々



市食生活改善(母子保健)推進員連絡協議会  
◆事務局・すこやか子育て課すこやか係  
(☎40-1691)

作り方

- ①鍋に水と砂糖と粉寒天を入れて火にかけ、煮溶かし塩を加える。
- ②①に豆腐とすりごまを入れ、泡立て器などで碎いて火を通し容器に流し入れ冷やし固める。

1人分当たり栄養価

エネルギー 179kcal/たんぱく質 4.6g/脂質 4.0g/塩分 0.1g

ワンポイント

豆腐の崩し具合で大理石のような見た目になります。この豆腐入りの寒天は、たんぱく質を豊富に含んでいます。食事の量が少ない方は、間食でたんぱく質を摂取することで不足分を補うことができます。お好みに応じて砂糖の量を調整してください。

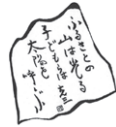


中川地区食改の皆さん

宮内中学校 3年(現高校1年)

安達 はな さん

「八月六日の誕生日」



第38回(令和6年度)

須藤克三賞 最優秀作品紹介

[作文の部]

中学校の部 最優秀作品

八月六日、私は十五回目の誕生日を迎えました。この日は毎年、友達や家族からプレゼントをもらったり、美味しいものを食べたりして過ごす特別な日です。八月に入ると私はその日が待ち遠しくて仕方がなくなります。しかしそんな日も、幼い頃の母の言葉を思い出し、モヤモヤとした気持ちになります。「あなたの誕生日には、昔原子爆弾というものが落とされて、沢山の人が亡くなったのよ。」そう告げた母の悲しそうな顔を、今でも忘れられません。今年の誕生日もテレビをつけると、広島市の平和記念式典の様子が映っていました。スピーチをしている小学生、それを聞く黒い服の大人達。海外の方の姿も見られます。そこにかつて爆弾が落とされたとは思えない、自然豊かなきれいな公園です。祖母がテレビを見ながら誰に話すでもなくこう言いました。「今の若い人達は見ているのかねえ。これからの時代を創る人達にこそ見てもらいたいんだけど。地元ではあんなに小さい子も平和について考えているのにねえ……。」そして今度は、はつきり私を見て言いました。「あなたは忘れちゃダメよ。こんなことが昔本当に起こっていたこと。」

この祖母とのやりとりは、それぞれ毎年挨拶のようになされるものでした。いつも私は「うん。」と答えて流してしまっていました。しかし、このいつもは流している言葉を今年も無下にするのができませんでした。というのも夏休みが始まる少し前、英語で学習した一人の少女のことを思い出したからです。少女が登場する「A mother's Lullaby」は、大野允子さんという方が書いた「かあさんのうた」をもとにしています。広島に長年植えられている大きな木が、爆弾投下の夜を思い出して語り始めます。「Mommy! Mommy!」 the boy cried. "Don't cry," the girl said. "Mommy is here."

八月六日の朝、広島に原子爆弾が落とされ、街は破壊されました。傷を負った人々が木の下に集まってきます。やがて夜になると、木の下から少女の歌声が聞こえてきました。母を求めて、泣きわめく男の子を抱え、一人の少女が歌い続けます。それは子守歌でした。最後、朝を待たず男の子は亡くなり、その少女もその木の下で亡くなってしまいます。おそらく少女も重傷を負い、息をするだけでも精一杯なはず。それでも、自身より幼い男の子を見つけ、その子の母に代わって抱きしめたいと思う優しさ。命を救ってあげられなかったという悲しさ。そして、生きたくても生きられなかったことの無念さ。教科書から、痛いほど伝わる思いに、私はしばらく心の整理をつけることができませんでした。原子爆弾が落とされたあの日、広島市では多くの方々が日常生活を送っていました。広島市のホームページによれば、令和六年八月六日現在、三十四万四千三百六名のお名前が広島平和都市記念碑の原爆死没者名簿におさめられています。平和式典が行われている場所です。この名簿に記された名前の中に、男の子のように家族から離れ離れになって亡くなった人、少女のように悲しみや無念さを抱えながら亡くなった人がいます。もしかしたら、私と同じようにその日に誕生日を迎えて、家族にささやかながらお祝いをしてもらっていた人もいたかもしれません。原子爆弾が、その一人一人の日常と命を奪い、悲しみを残しました。そしてこの悲しみを知った私達にも大きな悲しみを残しました。「あなたは忘れちゃダメよ。こんなことが昔、本当に起こっていたこと。」

祖母の言葉にあった「こんなこと」が、一つの事実ではなく、あの場所であつたものすべてを指している。たくさんの方が失われ、残ったのは悲しみだけ。この作品に出会ったことで、私は初めて戦争とは何なのかを理解できた気がしました。だからこそ、私が思ったこと理解したことを、風化させてはいけないと感じるようになりました。もし、私達がこのことを忘れてしまったら、また同じ悲しみを繰り返してしまうことになります。そうならないために、今を生きている私達は、これから生まれる人達に伝えていく責任があります。忘れてはなりません。令和六年八月六日、私は十五回目の誕生日を迎えました。そして同じ日、広島市では七十九回目の平和記念式典が行われ、その様子がテレビで放映されました。祖母は言います。「あなたは忘れちゃダメよ。こんなことが昔、本当に起こっていたこと。」毎年流していた言葉に、私はこう返しました。「うん。私だけじゃなくて他の人にも、何十年先にも伝えていく。この日に生まれて、戦争のことをちゃんと知れて、本当に良かった。」